

開催日	所長報告	すばる運用
2012/8/22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すばるの中・長期計画に関わる所長試案の提示(装置のパンプ・デコミッション、キュー/サービスモードへの移行、時間交換の推進と一般枠への外国人応募禁止、アジア諸国との連携)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HSC戦略枠の今後の審査スケジュールの確認</li> <li>・次期装置計画について次回のSACで観測所案を説明していただき、議論する。</li> </ul>
2012/10/16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HSC進捗報告(フィルター交換機構は1年程度の再調整が必要)</li> <li>・マウナケア所長会議・UM報告(マウナケアとしての連携ができつつある)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代装置の観測所案(近赤外線広視野撮像・多天体分光+GLAO)についてハワイ観測所岩田氏の説明を伺い、質疑応答。今後さらに検討を進める。</li> <li>・HSC狭帯域フィルター申請4枚の承認</li> <li>・HSC戦略枠の予備審査を担当する有識者の選任(戦略枠提案のCoIとなっている委員は退席)</li> </ul>
2012/11/20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Gemini/Keckとの時間交換について、採択夜数にアンバランスがある(先方からの要望のほうが多い)ので、時間交換推進の観点から所長裁量時間から数夜持ち出して対応したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HSC戦略枠の開始時期に関する議論(共同利用開始はS14Aにずれ込む可能性がある。戦略枠の開始時期については継続審議)</li> <li>・TAC報告(S13Aの採択率は通常どおり。次期からhighzカテゴリをLAE/LBGとそれ以外に二分割する。また、PI装置提案は装置PIを必ずCoIに含めることとする。)</li> <li>・HSCフィルターの受け入れポリシーに関する検討依頼(製作されたフィルターは観測所に譲渡されるが、公開に猶予がほしいという製作者側からの要望)=&gt;継続審議</li> </ul>
2012/12/25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TUEの修復が完了し、S-Cam観測を再開した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HSCのデータ解析について、観測所とデータセンターが連携しながらカタログのアーカイヴを目指す方針で、そのために観測所はキュー観測を導入する考え。今後HSCチームと協議しながら検討を進める。</li> <li>・HSC戦略枠一次審査報告(天候条件を考慮しない必要観測夜数を明示することを条件に、第一次審査通過と認める)</li> <li>・HSC公開のタイミングに関する議論(拙速は避けたいがS13B途中からの公開の可能性を残してほしいという要望がある。公募要項公開直前の判断になる)</li> </ul>
2013/1/23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観測所の近況についてはUMで報告したばかりなので割愛。</li> <li>・2/18-19にソウルで日韓合同の近傍銀河分野のWSを開催する(昨年11月の日韓合同WSの発展として分科会)。</li> <li>・3月にコナでKeck20周年記念行事があり、所長が参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HSCフィルターポリシーに関する議論=&gt;これまでのフィルターポリシー(HSCフィルターは観測所装置の一部として共同利用等の一般公開に供される)に「ただし公開されてから3セメスタ(3回のCall for Proposals)の間は、使用希望者は事前にフィルター製作者の承諾を得ることを必須とする」と付記することになった。</li> <li>・HSC戦略枠提案の審査スケジュールについて:3/11に行われるS13B仕分けに合わせてサイエンス審査を行い、3/19のSACで体制の審査を行う。CoIとなっているTAC委員が多いため、SACから当該分野の委員3名がサイエンス審査に加わる。</li> <li>・HSC公開について、S13B公開の可否は2/5頃までに観測所が判断する。</li> <li>・FMOS戦略枠の正式採択から1年後となる2013年4月頃にFMOS戦略枠の中間審査を実施する。</li> </ul>
2013/2/20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HSCのS13B非公開の経緯説明(ハワイ観測所 岩田氏)</li> <li>・HSCの最新の状況(ケーブル巻き取り事故)の説明(臼田委員)</li> <li>・中国TAP UM参加報告(大橋委員:中国はまだ8M望遠鏡にアクセスする下地は整っていない印象)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HSCはS13Bでの共同利用公開を断念し、S14Aでの公開を目指すことになった。</li> <li>・HSC戦略枠のサイエンス審査はその後のTAC内の議論で、TACのみで行うことになった。CoI以外のTAC委員+TAC委員長(採否の議論には不参加)で3/28にサイエンス審査を行い、4/23(予定)のSACで体制の審査を行う。</li> <li>・FMOS戦略枠の中間審査の日程について(5/1に実施)</li> </ul>

開催日	所長報告	すばる運用
2013/3/19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月初めからTUEが使用できなくなり、観測スケジュールを変更して共同利用を継続している。</li> <li>・Keck20周年記念式典参加報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HSC進捗報告(ケーブル巻き取りの修復が進み5月に観測再開予定)</li> <li>・PFSレビュー(PDR)報告:PDRの要件は満たしているため、次の段階に進めてよい。</li> </ul>
2013/4/23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HSCデータに関するデータ専門委員会提言の紹介(全てのHSC観測で標準パイプライン処理を行い、品質管理された処理済みデータを配布すべき、という内容)</li> <li>・NAOJのPFSレビュー報告:現在の予算で実現可能なdescopingプランをIPMUからSACに提出することになった(高遠委員)。</li> <li>・観測スケジュールの組み換えに伴う各種報告(所員時間観測の実施を承認、HSC試験観測の予備日は院生の共同利用観測への配慮を要請)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HSCキューモードの検討について:HSC開始から1年以内にキューの体制を整える予定で、具体的検討を開始している(所長報告)</li> <li>・HSC戦略枠審査:PIIによる体制報告のプレゼンテーション、TACから提出されたサイエンス審査結果報告を受け、最終審査を行った。データリリース計画について再度SACにレポートを提出すること</li> <li>を条件に5年で300夜(予備を含む)の採択とした。</li> </ul>
2013/5/21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MK所長会議(4/12)報告</li> <li>・CFHT UM(バンクーバー)参加報告:ngCFHT計画をカナダが推進しているが、フランスはあまり積極的でない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HSC運用は当面安全のために1セメスタ4ヶ月の運用としたい。また、最初のセメスタは限定的な公開になる。戦略枠、ハワイ大学時間、Gemini/Keck時間を差し引くと、HSCの一般公募観測は1セメスタ1-2夜になる(所長報告)。戦略枠と公募観測の兼ね合いについては、戦略枠チームが観測領域と深さを公開し、日本のTACはそれを参考に採択する。日本人は誰でも戦略枠に加われるので、似たようなサイエンスの場合は一緒に進めることを推奨する。外国提案については制限できないので様子を見る。</li> <li>・5/11にFMOS戦略枠の中間報告会(公開)とSACによる中間審査を行い、残り全12夜の実施を承認した。</li> <li>・HSC戦略枠のデータリリース計画について、2年に一度データの公開を行うというチーム案を承認した。データリリースについては中間審査の際に改めて検討する。</li> </ul>
2013/6/18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臼田副所長が三鷹帰任となり、岩田氏が後任の副所長となった(今後SACに出席する)。</li> <li>・望遠鏡近況報告(主焦点観測の再開)</li> <li>・5/23に所内でシンポジウムを行い、事故防止について自由な意見交換を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HSCのフィルター受け入れポリシーに次の一項を追加することとした。「予算申請前に観測所に相談すること」。</li> <li>・S13B TAC報告(Geminiを使う提案の採択に苦労している。外国人提案数については様子を見る。HSCについては戦略枠で取得予定のデータを明らかにしてもらい、プロポーザルに戦略枠観測との違いを明記してもらうこととする)</li> <li>・光天連推薦・TAC推薦を元に次期TAC委員候補者を決定。</li> <li>・Euclidからの連携提案については、「回答を待ってほしい」と先方に連絡した。今後検討を進める。</li> </ul>
2013/7/16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7/10の午後、ドーム内が停電し、7/10と7/11の観測をキャンセルした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HSCの運用案:S14Aで公開するかどうかは未定だが、公開する場合はリスクシェアでクラシカルモードの運用とし、10夜程度のランを3回の予定。フィルターは広帯域のみ(後日注:S14Aで公開。ランは2回、トータル20夜。公募分は7-8夜程度)。</li> <li>・SEEDSデータの保護期間について、30ヵ月への延長を認めてあるが、それがIRCS観測にも適用されることを確認。</li> </ul>

開催日	所長報告	すばる運用
2013/9/4	<ul style="list-style-type: none"> <li>SA組織を改編した(これまでの一律業務50%で無任期から、将来のキャリアパスを考慮した3つのカテゴリに再編)</li> <li>UH側からHSC戦略枠の狭帯域フィルターのサイエンスについて知りたいという要望がある(同じような観測提案を避けるため)。</li> <li>汎太平洋国際天文台構想(所長私案)の紹介(MK連合+アジア諸国、オーストラリアでESOのような組織を作る構想)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HSCはS14Aは2か月の運用とし、その後徐々に増やし、S16Aからは定常運用としたい。データのクオリティ・コントロールもS16Aからの実施を目指している。S-CamのデコミッションもS16Aの予定。</li> </ul>
2013/10/22	<ul style="list-style-type: none"> <li>今夏の主鏡蒸着は無事終了した。S-Camのフィルター交換機構が故障し、修理中。</li> <li>ESOのDirectorを訪問し、VLTとすばるの時間交換について打診した。各加盟国と相談した上で数か月以内に先方から返答がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SEEDSチームから約20夜の補填要望があった。次回のSACまでに望遠鏡・装置トラブルと天候ファクターを分けたダウンタイム統計を示し、所期の目的で未達成の部分と追加観測の部分で明記した要望書を再提出していただき、再審議する。</li> </ul>
2013/11/19	<ul style="list-style-type: none"> <li>香川大学の協力で、観測所員の遠隔健康管理を試験的に行う予定。</li> <li>PFSの設置場所を1月までに決める必要がある。それに関連して装置デコミッションの検討を始めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同利用観測者の受け入れに関するルール改訂案が共同利用係から提案された(プロポーザル未記載者の参加希望が最近増え、また観測に必要な不可欠な人員かどうか疑問に思われるケースがあることから)。SAC委員からは3名の旅費支給枠を維持してほしいという要望が出された。S14Aは当面現状維持とし、引き続き所内で検討する。</li> <li>HSCのエンジニアリングデータ(生データ)の公開については、原則公開すべきであるという意見が大勢を占めたが、引き続き所内で検討する。</li> </ul>
2013/12/24		<ul style="list-style-type: none"> <li>共同利用観測者の受け入れルール改訂については拙速を避け、S14Aはこれまで通り旅費支給枠は3名とすることが観測所から報告された。</li> <li>HSCエンジニアリングデータは原則公開の方針となったことが観測所から報告された。</li> <li>S14A TAC報告(山下TAC委員長): Geminiとの時間交換について交渉の結果Band1とBand2に半々ずつ振り分けてもらえることになった。HSC戦略枠と共同利用提案の重複の扱いについて要検討。</li> <li>SEEDSチームからの観測時間補填要望書を検討した。望遠鏡トラブルで失った2夜の補填は認めるが、悪天候の補填はできない。インテンシブ枠への応募を奨励することになった(HiCIAOはPI装置だが、インテンシブ枠への応募を認める)。</li> <li>外国人プロポーザルの扱いについて、時間交換枠を20%まで拡大した上で、外国人PIの受付を停止するという所長案が紹介された。今後さらに検討する。</li> </ul>
2014/1/28	<ul style="list-style-type: none"> <li>EACOAが中心となってJCMTを運用する話があり、日本も参加する場合は、ハワイ観測所が窓口になる。</li> <li>タイのNARIO所長から見学希望がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PFSはFMOS階に置くことが現実的と思われるので、PFS稼働が確実となればFMOSデコミッションは止むを得ない状況だが、引き続き検討していく。</li> <li>将来共同利用時間の見直し(戦略枠の上限の緩和等)が必要になる可能性があるが、これも継続的に審議していく。</li> <li>FMOSを使うインテンシブ提案に限り、セメスタあたり最大10夜の夜数制限をはずすこととした(1プログラム最大20夜は変更なし)。</li> <li>共同利用観測者への旅費サポートはS14Bから原則2名にするという観測所案がUMで説明されたが、その方針を確認した。三鷹リモート拡充の要望も出た。</li> <li>HSC戦略枠チームとハワイ大学が、COSMOS領域のデータをシェアすることを検討しているが、今回の2夜分に限り承認した(事例ごとの判断とする)。</li> </ul>

開催日	所長報告	すばる運用
2014/2/20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JCMT運用に日本も加わる方向が幹事会議で紹介された。</li> <li>・5月頃開催される所内シンポジウムにSAC委員数名の派遣を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三鷹リモートを積極的に整備したい(所長報告)</li> <li>・共同利用時間の見直しが必要かどうか議論した。すばるは将来サーベイに大きな時間を割り当てる方向なので、国際協力など戦略的な利用のために所長裁量時間を増やすことが考えられる。インテンシブ枠については2年20夜を超える提案も事前に所長が相談を受け付けることにする。装置のデコミッションについては光天連での検討も依頼し、今年後半にSAC提言を観測所に出せるようにする。</li> <li>・PI装置の受け入れの際、今後は受け入れ期間を定める必要がある。</li> </ul>
2014/3/18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(所長欠席のため岩田副所長より)S14B公募受付時のサーバーのトラブルについて、報告があった。影響を受けたPIIには個別に連絡を取り、全て受け付けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TACからの依頼で、HSC戦略枠と共同利用課題の重複について、TACとの合同協議を行った。戦略枠データを待てばよいような観測提案は基本的に却下するが、何らかの観測パラメータが戦略枠と異なる提案は問題ない。</li> </ul>
2014/4/22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北京天文台との連携協議に関連して、中国枠1夜の所長プランが紹介された(日中共同で提案したプロポーザルの一番よいものが平均レベル以上であれば、1夜供与する)。今後SACと協議しながら進める。</li> <li>・2013年の成果論文数が前年より大きく減少しており、経過を注意深く見守りたい。</li> <li>・東アジア天文台が実体として立ち上がり、手始めとしてJCMTを運用する計画であることが大橋副所長から報告された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三鷹リモートの整備について、今年度中に整備して定常的に行う方向にする考えが所長から報告された。当面は三鷹からコマンドは出さずにリモートモニターする形になる。</li> <li>・時間交換枠を通さない外国人の応募については、次回から公募要項に「Gemini/Keckに応募する権利がある研究者は、Gemini/Keckの時間交換枠を通じてすばるに応募すること。時間交換枠を通せない明確な理由がある場合はその理由を明記すること」と記載することにした。</li> </ul>

開催日	UM、シンポジウム等	光赤外専門委員会・SAC内	国際協力	その他
2012/8/22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すばるUMの開催日を1/15-1/17に決定</li> <li>・Euclid参加のメリット・デメリットを整理するための研究会を高田委員中心に企画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員長、副委員長互選(吉田委員長、青木副委員長を選出)</li> <li>・今期のSACの課題について(直近の問題としてはEuclid参加の検討、HSC共同利用の準備、戦略枠の監視と推進)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Geminiの新所長とMOUについて合意した(所長報告)</li> <li>・Geminiサイエンス・ミーティング参加報告(各パートナー間の意思調整が難しい様子)</li> </ul>	
2012/10/16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・UM世話人の決定、議論の大枠の決定</li> <li>・HSC研究会でEuclidについて出た意見の紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期SAC提言書の英語版の確認依頼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Keckサイエンスミーティング参加報告(サイエンスは系外惑星に力点がある様子)</li> </ul>	
2012/11/20			<ul style="list-style-type: none"> <li>・GeminiとのMOUに双方の所長がサインした(時間交換の夜数はその都度の交渉。装置を共同で開発)</li> <li>・日韓合同WS報告(今年は韓国側がホストだが、来年は日本側がホストになる)</li> </ul>	
2012/12/25			<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国からLAMOST-SubaruのミニWSの提案がある。また、1月末のTAP(Telescope Access Program) UMに招待され副所長が出席する。</li> <li>・3月末にngCFHTの国際会議が開催されすばるからも参加するが、アジア諸国と連携の話をする場になりそう。</li> <li>・マウナケア装置開発WS(Subaru,Gemini,Keck,CFHT)をハワイ観測所主導で企画する。</li> </ul>	
2013/1/23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すばるUM報告(キュー観測導入への強い反対はなし。アジア諸国との連携について、対等の連携が大事とのコメント)</li> <li>・Subaru-Euclid WS報告(コミュニティとしては否定的な意見の方が多い)</li> <li>・5月頃GLAO検討会を開催する(日程調整中)。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・Euclidとの連携については「サイエンス白書」の提出を受けてから改めて検討する。</li> </ul>	
2013/2/20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソウル大 銀河進化WS参加報告(所長:「すばるの学校」の韓国開催構想がある)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・MK望遠鏡群装置WSIについて、まず4月のMK所長会議で開催を打診してみる。10年後の装置プランを話し合う場としたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本学術会議報告:光赤外分野の次の大型計画は、TMT, SPICA, 南極天文台という認識。</li> </ul>

開催日	UM、シンポジウム等	光赤外専門委員会・SAC内	国際協力	その他
2013/3/19			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「すばるの学校」の韓国開催案について:東アジア版すばるの学校のプロトタイプとなる企画書を所内で準備して、関係国に提案してみる。</li> <li>・LAMOSTとの連携について:まだ具体的な進捗はない</li> </ul>	
2013/4/23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6/13-14に北海道大学でGLAO WSを開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度内のSAC開催日を決定した。</li> <li>・TAC委員の改選時期なので、光天連に候補者推薦を依頼した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VLTに時間交換を行いたい旨の所長レターを送った。</li> <li>・Caltechやカリフォルニア大学からHSC稼働を念頭に連携提案が来ている(所長報告)。</li> <li>・HSC-Euclid白書の受領</li> </ul>	
2013/5/21			<ul style="list-style-type: none"> <li>・Euclid-HSC連携提案について:賛否両論あり判断が難しい。インテンシブ枠を使ってパイロットサーベイをやることも考えられる。さらに時間をかけて検討していくことにした。</li> <li>・今後必須となる国際協力に関連して、ボードのような意思決定機関が必要になると予想される。観測所から検討依頼があり、今後の検討事項とした。</li> </ul>	
2013/6/18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GLAO Science WS報告(6/13-14、北大)カナダが興味を示している。この秋に概念設計を行い、科研費に応募予定。</li> <li>・Geminiから次のすばるUMでGeminiセッションを設定してほしいという提案があった。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・GeminiからHDSを譲ってくれないかという打診があった(所長報告)。</li> <li>・Euclidからの連携提案については、「前向きに検討するが時間を要する」と台長に答申した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PFS進捗報告:資金が不足しているが、descopingは検討せず、経費の削減に努めることになった。</li> </ul>
2013/7/16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すばるの学校の韓国開催の準備を今後進める。</li> <li>・今年度のすばるUMは1/21-1/23の開催とする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・AAO所長が來台し、すばるとの連携を検討しているという話があった。</li> <li>・EACOA報告(6/27)にヒロでエグゼクティブミーティング)</li> <li>・NASAからNEO(Near-Earth Objects) Programへの協力依頼が非公式にあった。</li> <li>・S14A期のGemini/Keckとの時間交換については、前期と同様と所長間で合意済み。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PFS関連: NSFの中期科研費(MSIP)に応募する予定。LSSTとの連携を謳ってプロポーザルの競争力を高めることを検討中。</li> </ul>

開催日	UM、シンポジウム等	光赤外専門委員会・SAC内	国際協力	その他
2013/9/4	<ul style="list-style-type: none"> <li>UMの世話人を決定し、準備を開始する。</li> <li>韓国開催のすばるの学校は2/24～に開催予定。</li> <li>Euclid, WFIRST, LSSTとの関わり方について検討する研究会の企画(国際協力の項参照)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>VLTと時間交換についての協議を開始するが、すばる側の初案としては1セメスタあたり5～10夜の交換を提案してみる。</li> <li>Euclidからの連携提案の検討を進めるにあたり、海外の大型衛星計画との関わり方に関する検討会をSAC主導で開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PFS関連: MSIPへの応募に際して、PFS時間の一部を米国コミュニティに開放することに言及する(報告)。</li> </ul>
2013/10/22	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年代の銀河サーベイ計画 (Euclid, WFIRST, LSST)にすばるとしてどう関わっていくかを検討する研究会を1/11(土)に三鷹で開催する。</li> <li>韓国でのすばるの学校は2/24午後から2/27にKASIでS-Cam撮像とMOIRCS分光を対象に開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>12月のSACは12/24(火)とし、2月のSACは2/20(木)に京都大学で開催する。京大では院生との懇談の機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HSC戦略枠の狭帯域フィルターによるサイエンスのUHへの情報開示については、チーム内で検討中。</li> <li>中国や韓国から個別に連携提案が来ている。すばるとしては望遠鏡時間の切り売りはしないで国際共同研究を推進するという立場で、共通の説明文書を準備する。</li> <li>PPO構想の補足説明と質疑(ESO方式に学びながら検討する)</li> </ul>	
2013/11/19	<ul style="list-style-type: none"> <li>間もなくUMのファースト・サーキュラーが出る。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>NASAからNew HorizonsミッションでHSCを使わせてほしいという要請が届いた。詳細はまだわからないが、今後交渉する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2015年にPASJですばる特集号を企画することにした。</li> </ul>
2013/12/24	<ul style="list-style-type: none"> <li>第5回すばる国際研究集会(12/8-12/12コナ) 開催報告</li> <li>UM世話人からの議論セッションの議題が紹介された。</li> <li>第6回すばる国際研究集会は再来年開催を目指す。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>NASA/HSTからの連携依頼について、HSTとの時間交換を視野に交渉を進める。</li> <li>東アジア天文台構想に関連してEACOAの近況報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PFSプロジェクト進捗報告(ゲスト 菅井肇氏、村山斉氏)及び質疑</li> </ul>
2014/1/28	<ul style="list-style-type: none"> <li>UMでの議論を受けて、運用上の諸問題について検討した(左欄参照)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>WISH計画についてSACで説明したいというPIの要望があり、他の大型衛星計画とも関わるので、SACに招いて話を聞くこととした。</li> <li>HSC戦略枠と共同利用課題の重複について、TACの要望でTAC・SACの合同協議を行うこととした。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>PFSのMSIPプロポーザル不採択の報告</li> </ul>

開催日	UM、シンポジウム等	光赤外専門委員会・SAC内	国際協力	その他
2014/2/20			<ul style="list-style-type: none"> <li>・HSTとすばるの時間交換交渉(年間5-6夜程度)を進める(所長報告)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PFSの状況確認</li> <li>・PASJのすばる特集号の準備を嶋作委員中心に進める(特にテーマは絞らない)。</li> </ul>
2014/3/18			<ul style="list-style-type: none"> <li>・New Horizonsへの協力について、S14Bで所長時間2夜を提供するが、先方は良好なシーイングを要求している。ToOのように共同利用時間に割り込ませることまではできないという意見が大勢を占めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WISHチームPIの山田亨氏を招き、WISH計画の概要と進捗、他の国際衛星計画やすばる・TMTとの相補性等について伺った。</li> <li>・PASJのすばる特集号の投稿締切は10月。SAC委員は1人1編集める。</li> </ul>
2014/4/22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JCMTを使ったサイエンスのWSを三鷹で9月を目標に開催する。</li> <li>・2015年実施予定の第6回すばる国際研究集会のテーマは広視野サイエンス(仮題: Wide Field View of Science-- from Suprime-Cam to Hyper Suprime-Cam)とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月の所員シンポジウムは観測所内のスペースの有効利用等がテーマになったので、SAC委員の派遣は見送り、改選後にSAC委員が所員と直接意見交換できる場を別途検討する。</li> <li>・SAC改選の準備を進める(光天連に候補者推薦を依頼するとともに、SAC内でも次期委員候補者を検討する)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北京天文台との連携協議に関する所長報告(中国ですばるに関するサイエンスWSを開催する、日中共同ですばるプロポーザルを準備する、すばるの学校を中国で開催する)</li> </ul>	